

第87回総合科学技術会議議事要旨

(日時) 平成21年12月9日(水) 14:07~14:48

(場所) 総理官邸4階大会議室

(出席者)

議長	鳩山由紀夫	内閣総理大臣
議員	平野 博文	内閣官房長官
同	菅 直人	科学技術政策担当大臣
同	原口 一博	総務大臣(代理 内藤 正光 総務副大臣)
同	藤井 裕久	財務大臣
同	川端 達夫	文部科学大臣
同	直嶋 正行	経済産業大臣
同	相澤 益男	元東京工業大学学長
同	本庶 佑	京都大学客員教授
同	奥村 直樹	元新日本製鐵(株)代表取締役 副社長、技術開発本部長
同	白石 隆	元政策研究大学院大学教授・副学長
同	今榮東洋子	名古屋大学名誉教授
同	青木 玲子	一橋大学経済研究所教授

(議事次第)

1. 開会

2. 議事

(1) 鳩山政権下における科学技術関係予算の編成過程の特色(報告)

(2) 平成22年度概算要求における科学技術関係施策の優先度判定等について(報告)

(3) 独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動の把握・取りまとめ(報告)

(4) 科学技術関係予算の編成に向けて(決定)

3. 配布資料

- 資料 1 鳩山政権下における科学技術関係予算の編成過程の特色について
- 資料 2 - 1 平成22年度概算要求における科学技術関係施策の優先度判定等についての概要
- 資料 2 - 2 平成22年度概算要求における科学技術関係施策の優先度判定等について
- 資料 3 - 1 独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動（平成20事業年度）に関する所見についての概要
- 資料 3 - 2 独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動（平成20事業年度）に関する所見について
- 資料 3 - 3 独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動に関する調査結果（平成20事業年度）（DVD配布）
- 資料 4 - 1 科学技術関係予算の編成に向けて（案）の概要
- 資料 4 - 2 科学技術関係予算の編成に向けて（案）
- 資料 5 科学技術関係予算の確実な確保について（緊急提言）
- 資料 6 平成21年度科学技術振興調整費による「重要施策課題への機動的対応の推進」課題の指定について
- 資料 7 第85回総合科学技術会議議事録（案）

「平成22年度科学技術関係予算の編成に向けて（案）」については、原案どおり決定し、総合科学技術会議から内閣総理大臣及び関係大臣に対し意見具申することとした。

冒頭、議長挨拶。

【鳩山議長（内閣総理大臣）】

今日の会議においては、いわゆる科学技術関係の予算の優先度をどのようにして判定をされるのかということに対してご議論いただきたい。先般皆様方が新しい試みとしてパブリックコメントを求め、いわゆる開かれた形で科学技術予算の優先度の判定をされてこられたと伺っている。ぜひそのようなご努力を多といたしながら、今日の会議に貴重なご意見を賜り、私どもの予算の限られた予算ではあるが、そのような状況の中で優先度の判定というものをいただいたものを貴重に考えながら、しっかりと行ってまいりたいと思っているので、どうかよろしくお願い申し上げたい。

議題（１）～（４）に関する各議員の発言は以下のとおり。

【白石議員】

２点指摘させていただきたい。

１つは、独立行政法人、これは29で研究者が約１万５千２百人おり、そのうち若手、37歳以下が5,200人、約３分の１だが、先ほど相澤議員から指摘があったとおり、若手の中で常勤が減って非常勤が増えている。しかも常勤の中では終身の身分保障のついたポストが減って、任期つきが増えている。その一方、38歳以上の研究員は増えているという事態がある。

大学のほうでも非常によく似たことが起こっており、大学の場合には全教員に占める若手の比率は、平成17年度の23%から平成19年には21%に落ちている。ということは、シニアの研究者が優遇されて、若手が冷遇されているということで、これは実は非常に深刻な問題。したがって、若手の研究者についての一般的なサポートは非常に重要で、これはぜひお願いしたいと思うが、同時に国の研究機関、それから国の大学については、特にやはり若手の処遇ということに注意して進めていく必要がある。

第２点は外国人の研究者、これは国の研究機関で約6.5%、大学は2.5%にとどまっている。これから2020年ぐらいを見渡すと、若手、これは40歳以下、20歳から40歳の日本の人口は20%ぐらい減少する。そういう中で、外国からの科学技術人材の取り込みは非常に重要になって来るが、大学はこれについての取り込みは非常に遅いというのが現状。この点でも国としての誘導措置、インセンティブをつけた誘導措置が必要であろうと考えている。この２点を指摘させていただく。

【菅議員】

大変重要な指摘、若手が冷遇されている、あるいは外国人がいろいろな機関で非常に少ないという指摘は、またあと時間が残ったところで場合によっては議論させていただく。

【川端議員】

今般、広範なご議論、パブリックコメント等も含めて、報告をまとめていただいたことをまず感謝申し上げたい。

一方、ここにも間接的に触れていただいているが、非常に厳しい経済状況にあるということ

と同時に、事業仕分けという新たに予算編成の透明化を図るという手法も取り入れられ、効率がいいか等々含めて、あのような観点でやった答えも先般の会議では予算編成に踏まえるようにという方針も決定された。

私たちとしては、今回の報告をしっかりと後でご了承いただければ受けとめ、まさに正反合のアウトヘーベンする気持ちで、両方の観点を踏まえて、一番いい予算を組めるように努力をしてまいりたい。

【本席議員】

京セラの稲盛さんの言葉で、大木はやがて朽ちて枯れる、そのおかげで太陽の光が若い芽に当たって森が再生する。これは企業の世界もまったく同じ。つまり若い芽が育つ環境をつくる、これが非常に重要なこと。私は、国の科学技術政策は、常に未来を見つめたものでないといけないと考える。すなわち基礎研究を非常に重視した考え方を持たなければいけない。

例えば、ワトソンとクリックがDNAが二重らせんであるということを明らかにした。五十数年前だが、それが今日の生命科学、バイオ産業、iPSによる再生医療、すべてつながっている、そういう視点を重視していくべき。

技術開発、投資の場合も特に基礎研究が重要、そこに焦点を当て、若い芽を育てて次の産業をどうやって育成するか、これに対する一貫した施策というのを国としては採るべきで、総合科学技術会議はそういうことに大きな役割を果たすべきではないかと考えている。

一言つけ加えると、先週ロンドンで主要国政府の研究資金配分機関の会議があったが、現在の非常に厳しい経済情勢の中で、ほとんどの主要国、米国、中国、EU、オーストラリアは科学技術への投資を増やしている。特に次の成長分野を支えるヘルスサイエンスにはかなり手厚い投資をしている。つけ加えさせていただく。

【奥村議員】

大変厳しい経済情勢の中で、ぜひいい予算編成をお願いしたいと思う。今回行政刷新会議等を含めて、私は科学技術がいろいろな意味で国民の目に触れたということは大きな意義があると思っている。本来、私どもはもっと先導して国民の皆さんに科学技術のありようを日ごろからお知らせするという仕事があったのだらうと思うが、私個人はやや忸怩たるものを感じている。

この研究開発は申し上げるまでもなく、基本的に世界共通で、競争が市場原理になっている

ので、民間の場合は研究開発のプロセスを途中で公開することは秘密上できないが、国の研究開発は単に予算編成プロセス段階の透明化だけではなく、研究開発を実行している過程で、もっと透明化というか、国民に見える化を推進していただきたい。それを日常的に行うことによって、国民から批判的意見も出、おのずと足腰の強い研究開発が進むと考えている。関係府省には日ごろの研究開発をもっと国民にわかりやすく説明できるような工夫をぜひやっていただきたい。

【青木議員】

経済学者の観点から一言言わせていただきたい。ゲーム理論を皆さんご存じかと思うが、その世界だとみんな自分のことを思って、自分の企業のことを思って精いっぱいやっているが、社会全体から見ると、本当は共同してもっといい均衡があるのがわかっていても、自分の身近な人とか企業のことを考えているので、そこに行き着けない。どうやってみんなが本当はあっちのほうがいいなと思っている均衡に到達するかというと、それこそ政治的リーダーシップだと思う。

こういうときこそ、5年、10年先のことを考えて、リーダーシップを発揮していただきたい。

(報道関係者入室)

【菅議員】

先ほど本庶議員や皆さんが言われた若い人、そういうものを本当どういうふうに、どういう形があるのか、どういうリーダーシップを発揮したらそうなるのかというのを、我々も政治家としてのリーダーシップというのは多少わかるが、若い人や外国人をどうするというのは、先日も総理のもとにノーベル賞受賞の学者が来られて、特に外国人のことは言われたが、外国人が来る際、家族の教育等まで考えると、なかなか来てもらえないという、そういう指摘もされていた。

【白石議員】

一見無駄に見えても予算を投入して、環境整備をし、大学がそれをやろうと思うようにインセンティブをつけていくしかないのだろうと思う。

【菅議員】

外国人の研究者をもっと呼ぶようにする。特に大学は少ないと言われている。

【白石議員】

大学は少ない。2.5%。非常に少ない。

【菅議員】

ユニバーシティではない。

【白石議員】

若手も同じ問題があり、放っておくと、教授会を構成しているのは年寄りなので、そちらに有利な決定になる。定年が65に延びている。

【菅議員】

何となく外からは、この会議そのものもそういう有力な方の集まりだから、逆に若手の声が聞こえないのではないかと、中にこういう場には皆さん若手を育てなきゃいけないとまさに言っ
ていただいているが、そこにギャップがある。さっき言われた若手が非常勤等の比率が増えて
いる、そういう意味では構造的に深刻。

【奥村議員】

深刻だと思う。私は企業から参っているが、企業の場合、会社の存続性を考えているので、
あるポストであっても若手に置き換えていくということを積極的にやる。そうした事は大学に
は余りないと思う。

【菅議員】

大学の教授会システムだと、どうしてもやや難しい。

【直嶋議員】

だから、我々が見る見方というのは、どうしても技術の内容とか、こういう分野とかになる

が、今のお話を聞いていると、人というのは、そこにどういうふう to それを相互に入れておくかという、ちょっと人を見る、人を見て科学技術を考えるという、そういう視点が必要になる。

【白石議員】

そのとおりだと思う。まさにコンクリートから人になったわけなので。

【直嶋議員】

先の議論にある大学の先生方や、研究機関もあるが、マネジメントの状況がどういうやり方をするかと、結局はなってくるのではないかと思う。

【鳩山議長（内閣総理大臣）】

議長として締めのお礼のごあいさつを申し上げたい。

大変今日は活発な意見交換ができて、よかったと思っている。

まず、議員の皆様方には今までとは違う形で、すなわち国民の皆さんに開かれた形で科学技術の政策の優先順位をつけていただいた。これは新しい試みだと思っており、私どもも事業仕分けというものも行ってまいったが、それとはまた違う次元ではあるが、同じような思想に基づいて行動していただいたことを心から感謝を申し上げたい。

国民の皆さんから見えるような形で、科学技術の重要性を認識をしていただくことは大事であり、また国民の皆さんが参加することによって認識も深まると思う。

今も大変白熱した議論もあったが、特に若手の研究者が冷遇されて、さらには外国人の方にも非常に狭き門であるということ、これは他国に比べて大きな日本のマイナスの特徴だと思っており、これを克服しない限り、科学技術において世界をリードする日本というものになかなかかなり得ないと思っている。

いかにして外国人をもっと日本に招いて最先端の研究をしていただける環境をつくるか、また若手の研究者に5年、10年、時間がたてば必ず花が開く研究もあるんだと、基礎研究に対してもっと力を入れる日本にしていくことが大変重要だと思っている。

そういう意味で、今日皆さん方が大変貴重な意見を具申をしていただいたと思っており議長としてこのことを大事に受けとめ、予算に十分に反映できるように努力をしてまいりたい。

改めて皆様方が貴重なお時間を割いていただいて、お運びくださいましたことに重ねて感謝を申し上げます。

(報道関係者退室)

【 菅議員 】

以上で本日の会議を終了します。

なお、前回会議の議事録と本日の資料は公表いただく。